

<天使実験>

cocoratte

ある時、一人の女子高生が校舎の屋上から消えた。

自殺ではない。遺体は見つからなかったからだ。

ぼくこと、川上竜介はそれを知らなかった。事件は、半年前のことだ。

それは新聞で報道されていたが、両親はそれをぼくに、見せなかったのだ。

結局それは単なる家出か失踪と判断され、現代において尊重されるようになった、個人情報の保護との観点から、ほとんど報道されなかった。

しかし間違いない。彼女は"天使"となったのだ。蒸発するように、消えていった。空想的か？ しかし、その妄想は正しい。

天使になりたがっていた少女は四人いたはずだ。彼女たちのグループは、ウィッチであり、クラスメイトが崇める、偉大な神でもあった。彼女たちが行ったものは、おそらく<天使実験>。

人を天使化させる計画だ。それについていけず、ぼくは、彼女たちのグループから脱退した。そして、親の勧めで、転校した。東京に。

けれど、四人との別れは寂しかった。A子、B子、C子、D子と呼ぶことにしよう。名前などには意味はもうない。誰がぼくを好きだったのかも……。だって天使の愛は……。ぼくには...重すぎる。

誰が天使となったのか？ それが分からない。個人情報の保護の徹底で氏名が公開されないのだ。新聞にも、ネットにも情報はない。事件が、起こった日付は分かっている。ぼくが転校した日。最後に四人と別れた日だ。

遠山りす、秋原恵子、ししみずち、マーガレット・レオ

これがアルファベットじゃない四人の名前だ。

ぼくは躊躇を感じながら、一番仲がよかった、遠山りすに電話をした。電話はつながらなかった。

ぼくは緊張する。

残りの三人も留守電か今は使用されていない電話の回線だった。誰が天使になったのか？

あきらめずに電話を思い出す。

留守電なのは、遠山りす、秋原恵子。使用されていない回線はししみずち、マーガレット・レオ。

おそらく学校では騒動となったのだろう。四人のうちの一人在消えたために、彼女たちは学校から、追放されたのかもしれない。

とすると、レオはアメリカに帰ったのだろう。留守電。ということは、遠山りす、秋原恵子は、無事だ。

つまり使用されていない固定回線のししみずちが怪しい。彼女は一人暮らしだったはず。

ということはししみずちは天使化していない。電話回線を解約できないから。天使化すれば。

それに、あの図太いししみずちがぼくを追って、天使化などするはずがない。とぼくは思う。

お互いに少し苦手なタイプだったはず。

ということは電話に出なかった、遠山りす？

それとも、同じく、秋原恵子？

遠山りすは積極的で、ぼくと仲がよかった。一番の親友。といってもいい。

秋原恵子はいつも大人しかった。彼女とは、あまり話した記憶はない。浮いていた。というのとも少し違うが.....。

そして、ぼくは気付いた。そのとき、携帯電話が鳴り響いた。

そこにいるんだね。とぼくは天使にいった。

謎は全て解けている。

誰が天使になったのか？という疑惑は。

ぼくは、家の電話に出た。予想通り、遠山りすからの電話だった。ぼくは、留守電になにも残さなかったが、彼女は、ピンと来たらしい。つまり、ぼくの電話番号が分からないから連絡しようがなかった。

そしてぼくもその事件には気づかなかったために、連絡が遅れた。彼女たちは絶望した。といってもいい。

親友が消えたことに対して。

そして、ぼくからの連絡がなかったことに対して。

彼女たちのグループは解散していた。遠山りすは、電話でいう。〈天使実験〉で、消えた少女は、秋原恵子。そして、彼女は、自分からそれを行った。一人で。

りすがいうには、彼女たちは今、その手のことをやめている。そのあと他愛のない会話をしたぼくたちは、残りの二人とも連絡をとることができた。

ししみずちはまだその手のことに興味をもっているが、懲りたようだ。マーガレット・レオとは日本語ではなく英語で話す。今、家族から雪隠詰めとのこと。アメリカではその手のことは厳しいのよ。と彼女はいった。

そして、消えた彼女が、ぼくの天使なのだ。

ぼくの天使が微笑むのを感じていた。